

各種申請等に必要な様式
道路占用申請等に必要な書類と様式

【仙台市が管理する道路】・・・仙台市道、県道、3桁国道

道路占用申請時に必要な書類

様式	必要部数	備考	
位置図	1	仙台市ホームページより印刷可	
現況三方向写真	1	指定工事事業者様 作成	
路線図	1	仙台市ホームページより印刷可	
道路使用許可申請書	3	泉区 宮城総合支所 秋保総合支所	指定工事事業者様 作成
	2	上記以外の区	
道路掘削図	4	指定工事事業者様 作成	

道路掘削 仮復旧の工事写真提出に必要な書類

様式	様式区分	備考
舗装本復旧工事計画書	水道局	工事着手前に道路使用許可の写しを窓口に提出していただき、給水装置工事施行要領様式-26号,27号,28号に道路占用申請番号を付番し、お渡しします。
舗装本復旧計画図	水道局	
道路掘削工事写真		着工前から完了まで、工種順に施工写真を整理し、A4サイズの用紙（縦形）に印刷したもの。 次ページ様式「仮復旧工事写真帳」ダウンロード可 アルバム型の工事写真帳にプリント写真を貼付したものは受付不可。

舗装本復旧の工事写真提出に必要な書類

様式	様式区分	備考
舗装本復旧工事完了届	水道局	工事着手前に道路使用許可の写しを窓口に提出していただき、給水装置工事施行要領様式-26号,27号,28号に道路占用申請番号を付番し、お渡しします。
舗装本復旧計画図	水道局	
納入通知書兼領収書の写し	水道局	道路復旧費（間接費）納付対象の場合
舗装本復旧工事写真		着工前から完了まで、工種順に施工写真を整理し、A4サイズの用紙（縦形）に印刷したもの。 次ページ様式「仮復旧工事写真帳」ダウンロード可 アルバム型の工事写真帳にプリント写真を貼付したものは受付不可。

【 国 道 】

東国道維持出張所・・・国道4号線（仙台バイパス）

国道45号線（苦竹ICより東側）

事前協議に必要な書類

様 式	必要部数	備 考
位置図	1	指定工事事業者様 作成
現況三方向写真	1	
占用許可申請図	1	

道路占用申請時に必要な書類

様 式	必要部数	備 考
位置図	1	指定工事事業者様 作成
現況三方向写真	3	
占用許可申請図	5	
土留計算書 (掘削深1.0m以上の場合)	4	

道路使用許可申請に必要な書類

様 式	必要部数	備 考
道路使用許可証	2	指定工事事業者様 作成 『道路占用許可書』の写しを添付して所轄警察署へ申請

着工届の提出に必要な書類

様 式	必要部数	備 考
道路使用許可証（写）	1	指定工事事業者様 作成
交通誘導員資格証明書（写）	1	
車道規制の場合1週間以上前に「申請書」「工程表」を提出（FAXによる）	1	

舗装本復旧工事計画書提出に必要な書類

様式	必要部数	様式区分	備考
舗装本復旧工事計画書	1	水道局	工事着手前に道路使用許可の写しを窓口に提出していただき、給水装置工事施行要領様式-26号、27号、28号に道路占用申請番号を付番し、お渡しします。
工事写真	2		
出来形	1		

舗装本復旧工事完了届提出に必要な書類

様式	必要部数	様式区分	備考
舗装本復旧工事完了届	1	水道局	工事着手前に道路使用許可の写しを窓口に提出していただき、給水装置工事施行要領様式-26号、27号、28号に道路占用申請番号を付番し、お渡しします。
工事写真	2		
出来形	1		

引継書提出に必要な書類

様式	必要部数	備考
占用許可申請図	1	指定工事事業者様 作成
国道路線調査平面図 (ワレット記入したもの)	1	

東国道維持出張所・・・国道45号線（苦竹ICより西側）

国道48号線

事前協議に必要な書類

様式	必要部数	備考
位置図	1	指定工事事業者様 作成
現況三方向写真	1	
占用許可申請図	1	

道路占用申請時に必要な書類

様式	必要部数	備考
位置図	1	指定工事事業者様 作成
現況三方向写真	3	
占用許可申請図	5	
土留計算書 (掘削深1.0m以上の場合)	4	

道路使用許可申請に必要な書類

様式	必要部数	備考
道路使用許可証	2	指定工事事業者様 作成 『道路占用許可書』の写しを添付して所轄警察署へ申請

着工届の提出に必要な書類

様式	必要部数	備考
道路使用許可証（写）	1	指定工事事業者様 作成
車道規制の場合1週間以上前に「申請書」「工程表」を提出（FAXによる）	1	

舗装本復旧工事計画書提出に必要な書類

様式	必要部数	様式区分	備考
舗装本復旧工事計画書	1	水道局	工事着手前に道路使用許可の写しを 窓口に提出していただき、給水装置工事施行要領様式-26号,27号,28号に道路占用申請番号を付番し、お渡しします。
工事写真	2		
出来形	1		

舗装本復旧工事完了届提出に必要な書類

様式	必要部数	様式区分	備考
舗装本復旧工事完了届	1	水道局	工事着手前に道路使用許可の写しを 窓口に提出していただき、給水装置工事施行要領様式-26号,27号,28号に道路占用申請番号を付番し、お渡しします。
工事写真	2		
出来形	1		

引継書提出に必要な書類

様式	必要部数	備考
占用許可申請図	1	指定工事事業者様 作成
国道路線調査平面図（ワセツ記入したもの）	1	

仮復旧工事写真帳

工事場所

工事日

施工者

- ・着工前道路写真を3方向から撮影する
- ・カッター予定箇所をチョークで表示した写真等

1. 収 号

着工前

- ・舗装カッター入れ施工中の写真

2. 収 号

カッター状況

- ・カッター完了後の寸法写真
- ・カッターを入れた範囲が分かるようにリボンテープやスタッフを当てて測定する
- ・カッター範囲が分かるようにリボンテープ上にピンポールを置き数字を示す
- ・リボンテープやスタッフの数字が見えない場合はアップの写真も添付する

3. 収 号

カッター出来形測定

例: . m× . m(分岐部)
. m× . m(引込み部)

- ・既存舗装厚測定写真
- ・剥がした舗装にスタッフとピンポールを当てて舗装の厚さを測定する
- ・付着した砕石により舗装厚が分かりづらくなる場合があるので注意して撮影する
見づらい場合はアップの写真を添付

4. 収 号

舗装厚測定

例: $t = 5 \text{ cm}$

- ・バックホーを使って掘削中の写真

5. 収 号

掘削状況

- ・掘削が完了し給水本管を現し管頂にスタッフを立て埋設深度を測定する

6. 収 号

給水本管深度

例: $H = 800$

- ・分水完了の写真
(ポリスリーブを巻いた状態の写真でも可)
- ・分水止めがある場合はキャップ止め状態
が分かる写真を添付

7. 収 号

分水完了

- ・引き込み管布設後に管頂にスタッフを置き
深度を測定(市道では通常80cmに埋設)
- ・布設管撤去の場合は撤去物の写真も添付

8. 収 号

引き込み管埋設深度

例: H = 800

- ・本管や引き込み管上の保護砂を転圧して
いる状況の写真(通常管上10cmまで)
- ・H=800 ~ 700
- ・タコやプレートを用いて転圧すること
- ・水締は原則禁止
- ・材料は川砂か洗い砂を使用すること
山砂は使用禁止

9. 収 号

砂転圧状況

- ・砂転圧完了後の深度測定写真
- ・転圧不足に見受けられる場合があるのでムラなくきれいに転圧面を仕上げること

10. 収 号

砂転圧完了

例: H=700

- ・碎石(RC-40等)や目ずりをランマで転圧している写真
- ・H=700~500

11. 収 号

碎石転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるのでムラなくきれいに転圧面を仕上げること

12. 収 号

転圧完了 深度測定

例: H=500

- ・砕石 (RC-40等) や目ずりをランマで転圧している写真
- ・H=500 ~ 300

13. 収 号

砕石転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるのでムラなくきれいに転圧面を仕上げること

14. 収 号

転圧完了 深度測定

例: H=300

- ・給水本管上部に埋設表示シートを布設する
- ・シート埋設深度は舗装種別により異なるので事前に確認しておくこと
- ・他の埋設管 (ガス管や下水管) のシートが布設されていた場合は原形復旧すること
- ・仙台市水道局指定のシートを使用すること

15. 収 号

埋設表示シート布設

- ・砕石 (RC-40等) をランマで転圧している
写真
- ・H=300 ~ 150

16. 収 号

砕石転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は
20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるので
ムラなくきれいに転圧面を仕上げる

17. 収 号

転圧後深度測定

例: H=150

- ・砕石 (RC-40等) をランマで転圧している
写真
- ・H=150 ~ 50

18. 収 号

砕石転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるのでムラなくきれいに転圧面を仕上げる

19. 収 号

転圧後深度測定

例: H=50

- ・加熱合材を転圧している写真
- ・既存舗装面との段差が無いように平滑に仕上げる

20. 収 号

加熱合材転圧状況

- ・着工前と同じ方向から3方向撮影
- ・仮復旧の仕上がり状態が分かるように撮影すること

21. 収 号

仮復旧完了

- ・仮復旧完了面の出来形測定写真
- ・仮復旧の範囲が分かるようにリボンテープやスタッフを当てて測定する
- ・仮復旧の範囲が分かるようにリボンテープ上にピンポールを置き数字を示す
- ・リボンテープやスタッフの数字が見えない場合はアップの写真も添付する

22. 収 号

仮復旧出来形測定

例: . m× . m(分岐部)
 . m× . m(引込み部)

- ・仮復旧完了面の分水位置上部に水色で丸くペイントする
- ・2.0m以下の場合、20cm円形のペイントを1ヶ所に表示する

23. 収 号

仮復旧マーク

- ・誘導員や工事看板の写真
- ・警察に申請したとおりに保安設備を設置する
- ・交差点を含む場合は3方向から撮影すること

24. 収 号

保安施設

側溝下部押込み工法の場合

- ・押しこみ前の器具をセットした状態の写真
- ・押込む際の反力を受ける設備が分かるように撮影する
- ・作業員が写らないように注意する

25. 収 号

サヤ管押込み工法(設置状況)

- ・サヤ管押込み途中の写真

26. 収 号

サヤ管押込み工法(押込み中)

- ・サヤ管押込み完了の写真

27. 収 号

サヤ管押込み工法(押込み完了)

- ・管端モルタル詰めを完了した写真
- ・道路側と宅地側の2種類撮影する
- ・U字側溝下部撤去の場合は給水管を引き抜き、道路側、宅地側から空隙にモルタルを充填する。
- ・サヤ管がある場合は給水管引抜後にサヤ管にモルタルを充填すること(写真要)
- ・分水と分水止め工事で既存サヤ管が再利用できる場合は再利用可

28.収 号

サヤ管押込み工法(管端モルタル詰め)

- ・GLからサヤ管頂までの深度がわかるようにスタッフを立てて撮影する

29.収 号

サヤ管押込み工法(GLからサヤ管頂までの深度)

- ・U字側溝下基礎コンクリート両脇に地山が残っていることがわかるように撮影する。

30.収 号

サヤ管押込み工法(地山確認)

- ・U字側溝の基礎砕石下端とサヤ管の離隔が10cm以上あることを計測し、撮影する。その際、ピンポールを使用する。
- ・基礎砕石の下端が明確に確認できない場合は、U字側溝の下端からサヤ管までの離隔を36cm以上(乗入部3種の場合は46cm以上)確保している状況を撮影する。

31. 収 号

サヤ管押込み工法(離隔確認)

側溝取り外しの場合 (例:高さ16cm L型側溝の場合)

- ・側溝下部配管状況の写真

32. 収 号

側溝下部配管状況

例: H = 800

- ・タコやプレートを用いて転圧すること
- ・水締は原則禁止
- ・材料は川砂か洗い砂を使用すること
山砂は使用禁止
- ・H = 800 ~ 700

33. 収 号

側溝下部砂転圧状況

- ・砂転圧完了後の深度測定写真
- ・転圧不足に見受けられる場合があるので
ムラなくきれいに転圧面を仕上げること

34. _____ 号

側溝下部砂転圧完了

例: H = 700

- ・側溝下部転圧中の写真
- ・H = 700 ~ 500

35. 収 _____ 号

側溝下部転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は
20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるので
ムラなくきれいに転圧面を仕上げること

36. 収 _____ 号

側溝下部転圧完了

例: H = 500

- ・側溝下部基礎砕石転圧中の写真
- ・側溝が一般部か乗入れ部かにより基礎砕石厚が規定されているので規定値以下にならないよう注意すること
- ・ H = 500 ~ 400

37. 号

側溝下部基礎砕石転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるのでムラなくきれいに転圧面を仕上げる

38. 収 号

側溝下部基礎砕石転圧完了

例: H = 400

- ・側溝下部基礎砕石転圧中の写真
- ・側溝が一般部か乗入れ部かにより基礎砕石厚が規定されているので規定値以下にならないよう注意すること
- ・ H = 400 ~ 270

39. 収 号

側溝下部基礎砕石転圧状況

- ・転圧完了面にスタッフを置き深度を測定
- ・埋戻材料にかかわらず一度の転圧は20cm以下にすること
- ・転圧不足に見受けられる場合があるのでムラなくきれいに転圧面を仕上げること

40. 号

側溝下部基礎砕石転圧完了

- ・側溝下部基礎コンクリート打設後の写真
- ・既存基礎コンクリートがない場合もあるが申請図通りに打設すること
- ・型枠を設置しきれいに打設すること

41. 収 号

基礎コンクリート打設完了

例: $H = 170$

$t = 100$

- ・勾配調整のモルタル敷完了写真

42. 収 号

モルタル敷均し完了

- ・モルタルで目地埋め完了した写真
- ・前後と段差無くきれいに仕上げること

43. _____ 号

側溝目地詰め状況

写真撮影のポイント

1. 工事写真は施工の照明となるものです。撮影忘れがあれば施工を証明出来ないためやり直しとなる場合があります
2. 着工から完了まで行程毎に順番通りに撮影すること。写真のピンボケや暗い・明るい等で不鮮明な写真とならないように注意すること
(日光の反射や日陰等でスタッフ数値や転圧面が見えない写真が多い)
3. 適切な施工を証明する写真ですので、何を伝えるための写真かを考えてさついですること

不備が多い工程

1. 1回の埋戻し厚さが200mmを超えている
2. 転圧完了面や出来形写真が暗く仕上がり不鮮明
3. ピンボケや被写体が遠く数字が見えない
4. 押込み工法時の器具設置写真(押込み前のセット状況)が無い
5. 管端モルタル詰め及び引き抜き部モルタル充填の写真が無い
6. 側溝下部基礎コンクリート打設厚測定写真
7. 調整モルタル敷均しの写真が無い
8. 側溝再設置時の目地詰め写真が無い
9. 歩道内に誘導ブロックがある場合は仮復旧であっても誘導ブロックを復旧すること
(仮設置又は貼り付けタイプを使用)
10. 埋め戻し材料は目ずりの代わりに碎石を使用できる。その際、単粒度碎石の使用は禁止
再生碎石又は碎石の0～40を使用すること

舗装本復旧工事写真帳

工事場所

工事日

施工者

- ・着工前道路写真を3方向から撮影する
- ・カッター予定箇所をチョークで表示した写真等

1. 収 号

着工前

- ・舗装カッター入れ施工中の写真

2. 収 号

カッター状況

- ・カッター完了後の寸法写真
- ・カッターを入れた範囲が分かるようにリボンテープやスタッフを当てて測定する
- ・カッター範囲が分かるようにリボンテープ上にピンポールを置き数字を示す
- ・リボンテープやスタッフの数字が見えない場合はアップの写真も添付する

3. 収 号

カッター出来形測定

例: . m × . m

・スタッフやりボンテープを当て影響幅を計測する。必要箇所全て撮影する

4. 収 号

影響幅測定

例: $W1 = 200$

$W2 = 200$

・剥がした舗装の既存舗装厚を測定する
・仮復旧部ではなく影響部の厚さを測定
・判定しにくい場合はアップの写真も撮影

5. 収 号

既存舗装厚測定

例: $t = 10\text{cm}$

・ブレーカーやバックホーで舗装を剥がしている状況の写真

6. 収 号

舗装取り壊し状況

- ・アスファルトの舗装を剥がし下層路盤(碎石層)の表面を転圧している写真
- ・工事規模に合わせた転圧機械を用いること

7. 収 号

不陸整正状況

- ・不陸整正が完了した出来形写真
- ・舗装予定箇所の両脇にスタッフを立て、水系を張った状態の写真
- ・整正不足にみうけられる場合があるので均一に仕上げること

8. 収 号

不陸整正完了

例: H1 = 100

H2 = 100

- ・プライムコート(PK - 3)をスプレーヤーで散布している写真
- ・周囲に飛散しないよう板やテープで養生すること

9. 収 号

乳剤散布状況

・プライムコート散布完了写真
隅々までムラ無く散布すること

10. 収 号

乳剤散布完了

・アスファルト舗装断面に刷毛等でタック
コート(PK - 4)を塗布している写真
周囲に養生テープを貼ること

11. 収 号

端部乳剤塗布

・アスファルト合材がトラックの荷台にある
段階で温度計を用い測定する
・表示された温度が見えるように撮影する
(規定では150 ~ 170)

12. 収 号

アスファルト合材到着温度

例: 160

・合材をレーキ等で敷均ししている写真

13. 収 号

合材敷均し状況(基層工)

・合材を敷均ししている最中に温度測定している写真
・温度計の表示が見えるように撮影する
(規定では110)

14. 収 号

敷均し温度(基層工)

例: 140

・振動ローラーを用いて転圧している写真

15. 収 号

合材転圧写真(基層工)

- ・1層目(基層工)完了写真
両端にスタッフを立て、水糸を張り下がり
測定する

16. 収 号

1層目転圧完了

例:H1 = 50

H2 = 50

- ・完了した基層面にタックコート
を散布している写真
- ・ムラにならないようにスプレー
で均一に散布すること
- ・周囲に飛散ないように板やテ
ープで養生すること

17. 収 号

乳剤散布状況

- ・タックコート散布完了写真
隅々までムラ無く散布すること
- ・散布面を車両が通行する
場合は養生砂を散布すること

18. 収 号

乳剤散布完了

- ・アスファルト舗装断面に刷毛等でタック
コートを塗布している写真
- ・基層工施工時に上部まで塗布していれば
写真は不要

19. 収 号

端部乳剤塗布

- ・合材をレーキ等で敷均ししている写真

20. 収 号

合材敷均し状況(表層工)

- ・合材を敷均ししている最中に温度測定
している写真
- ・温度計の表示が見えるように撮影する
(規定では110 以上)

21. 収 号

合材敷均し状況(表層工)

例: 140

・振動ローラーを用いて転圧している写真

22. 収 号

合材敷均し状況(表層工)

例: 140

・表層転圧完了の写真
仕上がりが分かるように着工前と同じ
方向から3方向撮影する

23. 収 号

2層目転圧完了

・本復旧完了後の寸法写真
・本復旧の範囲が分かるようにリボンテープ
やスタッフを当てて測定する
・本復旧の範囲が分かるようにリボンテープ
上にピンポールを置き数字を示す
・リボンテープやスタッフの数字が見えない
場合はアップの写真も添付する

24. 収 号

本復旧出来形測定

例: . m × . m

- ・誘導員や工事看板の写真
- ・少なくとも2方向から撮影する
- ・交差点を含む場合は3方向から撮影する

25. 収 号

保安施設

舗装本復旧写真撮影のポイント

1. 着工前と施工後の写真を同じ方向から3方向撮影する
2. 合材到着温度及び敷均し温度の写真がピンボケや遠くて温度表示が見えない場合があるので注意して撮影すること
3. 同じ路線で近接した施工箇所であっても箇所毎に一連の写真を撮影すること
4. 既存舗装厚が規定値より厚い場合は既存舗装厚に合わせて施工し、既存舗装厚が規定値より薄い場合は規定値の厚さで施工すること
5. アスファルトの転圧は1度に最大7cmまで、アスファルト安定処理は10cmまでとする
6. 仮復旧から本復旧施工までは1週間以上養生すること
7. 本復旧影響部から1.2m以内に絶縁線やL型・U型側溝がある場合はそこまでの部分を影響部として含めること
8. 本復旧範囲が道路全幅で反面ずつ施工する場合、同じ行程であっても全ての行程写真を撮影すること(反面の行程写真のみは不可)